

都議会議員から見た東京都の新型コロナウイルス対策  
及び財政調整基金に対する見通し

2021年2月14日

はじめに

新型コロナウイルスへの対応で各都道府県のトップの露出が目立った2020年、特に感染者の多い東京都は様々な対応で世間の注目を集めてきた。世論では賛否両論に分かれた小池都知事の対応であったが、都議会議員の間ではどの様に評価がされているのだろうか。また、都議会議員は逼迫している東京都の財政調整基金の今後の見通しについてどのように捉えているのだろうか。本稿では、これらの問題関心を説明するために、各議員の性別・年齢・会派・前職などに着目をして分析を行う。

背景

東京都は2021年3月までに2020年の4月から全7回に渡って感染拡大防止協力金の支給を行ってきた。加えて、毎日行われる小池都知事の会見、2020年3月の感染症対策サイト開設、2020年1月の東京都議会災害対策連絡調整本部設置など様々な対策を講じてきた。そのような取り組みを都議会議員たちはどのように捉えているのだろうか。都議会議員の多くは会派に属して政治活動をしているため、その影響を色濃く受けているのではないかと考えられる。また、新型コロナウイルスの感染拡大以前から同じ東京都議会の一員として小池都知事を近くで見えてきたからこそ違った評価の視点があるのではないかと考えられる。つまり、都議会議員のデータを分析することによって、世論とは違った評価の傾向が見られるのではないかと考えられる。本稿では都議会議員の政策支持・財源に対する見通しと性別・年齢・会派・前職の関係を分析する。

先行研究

議員のどのような属性が議員の行動・思想に影響しているのかについての研究を概観する。本稿の対象は都議会議員であるが、議員一般の行動に関しては、国会での政党の行動を分析した川村(2012)がある。川村(2012)によれば、議員は自身の会派出身のリーダーの政策に非常に協力的なことに対し、そうでないリーダーに対しては基本姿勢が非協力である。また、実際に都議会議員の行動に関する研究としては室谷(2017)があり、2017年の都議会議員選挙において、公明党所属の議員は都民ファーストの会を支持しており、都民ファーストの会の快進撃を支えたと言及している。上記の2研究から、政策の評価にはリーダーと会派が影響しており、公明党所属の議員は都民ファーストの会に協力的な行動をとる可能性があると考えられる。このほか、議員の行動に影響を与えるものとして、議員になる前の経験や職業が考えられる。岡崎(2001)の研究では今までのライフイベント研究と大学生475人を対象とした調査をもとに、過去の経験は現在・未来に影響すると結論づけている。

以上の研究から、政策の評価にはリーダーと議員自身の所属している会派が大きく影響しており、その中でも公明党は都民ファーストの会に協力的であると予測することができる。加えて、前の職業での経験は現在の行動や思考に影響を及ぼすという可能性が指摘できる。

## 仮説

政策の評価にはリーダーと会派が影響しており公明党所属の議員は都民ファーストの会を支持しているため、都民ファーストの会所属の議員と同じ傾向を見せる可能性があることから、小池都知事の新型コロナウイルス対応評価については「小池都知事の支持勢力である都民ファーストの会・公明党が高い評価をし、それ以外は比較的厳しい評価をする」という仮説を導く。

また、過去の経験は現在・未来に影響することから、東京都の財政調整基金の今後の見通しについては「以前に経済や経営などの知識を多く扱う職業に就いていた議員は一致した比較的慎重な見通しを立てる」という仮説を導く。

## 分析方法

以上の仮説を実証するため全都議会議員 127 名に対し、東京都の社会問題などについての質問を設置した意識調査を郵送調査で行い、同時にgoogle フォームを利用したWeb調査を行った。実施期間は 2020年10月16日から 2020年11月18日の間である。調査の有効回答数は43であった。この回答結果を用いて、各議員における東京都の新型コロナウイルスの対策の評価、財政調整基金の今後の見通しの違いとその要因について分析する。

変数	調査票の質問	尺度
「Q12」	総合的にみて、東京都の新型コロナウイルス感染症対策をどれくらい評価しますか？「評価する」を10点、「評価しない」を0点、「どちらともいえない」を5点として、0から10の間の数字でお答えください。	0(評価しない)～10(評価する)の11段階
「Q13」	それでは以下の項目についてはどのくらいの評価でしょうか。	0(評価しない)～10(評価する)の11段階

	東京都の感染拡大防止協力金/東京都の感染症対策サイト/東京都知事の会見/東京都議会災害対策連絡調整本部の提言	
「Q14」	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、財政調整基金の残高が2019年度と比べ9割減と大幅に減少しています。緊急事態宣言前の水準に戻すにはどの程度の期間が必要だと思いますか。年数でお答えください。	自由記述(年数で回答)
「性別」		0:男性 1:女性
「年齢」		実数
「会派」		カテゴリカル変数
「前職」		0:該当しない議員 1:前職が金融・経済に関連する議員

#### 記述的統計

表1：Q12からQ14の項目の記述的統計

	コロナ対策 総合評価	感染拡大 防止協力金	感染症対策 サイト	知事の会見	災害対策連絡 調整本部	財政調整基金
平均値	6.9	7.3	7.5	6.6	7.1	7.6
中央値	8	7.5	8	8	8	9
最大値	10	10	10	10	10	15
最小値	1	1	1	0	0	2
標準偏差	2.36	2.23	2.45	3.01	2.37	2.93

表1は調査結果の各項目の平均値・中央値・最大値・最小値・標準偏差を集計した記述的統計である。平均値を見ると新型コロナウイルス対策のなかでも最も評価が高かったのは感染症対策サイトだということが分かる。中央値はいずれも平均値を上回っておりそれぞれの項目には少なからず偏りがあると解釈することができる。財政調整基金残高回復にかかる期間の見通しは最短で2年、最長で15年と議員によってかなり差のある結果となった。過去のデータを確認すると、財政調整基金残高が現在の水準になったのは2003年以来<sup>1</sup>であり、東京都は17年の時をかけて2019年までの基金を築いてきたとすることができる。

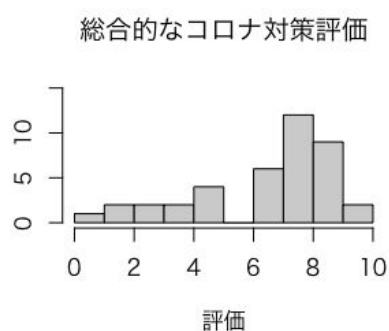


図1：総合的な評価

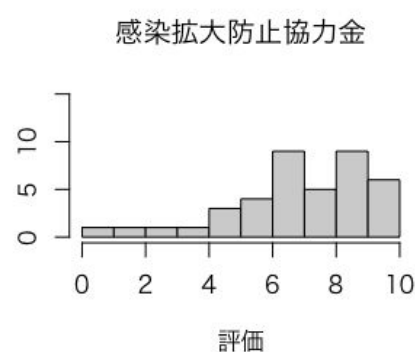


図2：感染拡大防止協力金

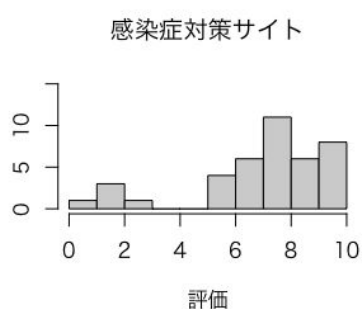


図3：感染症対策サイト

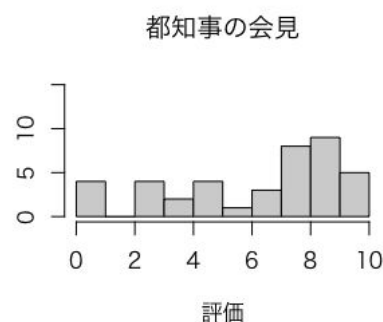


図4：知事の会見

<sup>1</sup> 出典：東京新聞 TOKYO Web 「コロナ対策 1兆円超、底つく貯金懸念 不透明な財政見通し<都知事選>」 <<https://www.tokyo-np.co.jp/article/38279>>2020年6月27日  
アクセス日：2021年1月31日

東京都議会災害対策連絡調整本部

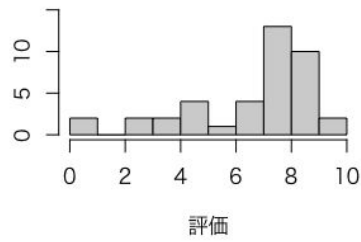


図5：災害対策連絡調整本部

図1から5はそれぞれの対策の評価をもとに作成したヒストグラムである。低評価も高評価も混在しているが全体的には高評価が多く、記述的統計の結果をよく表している。

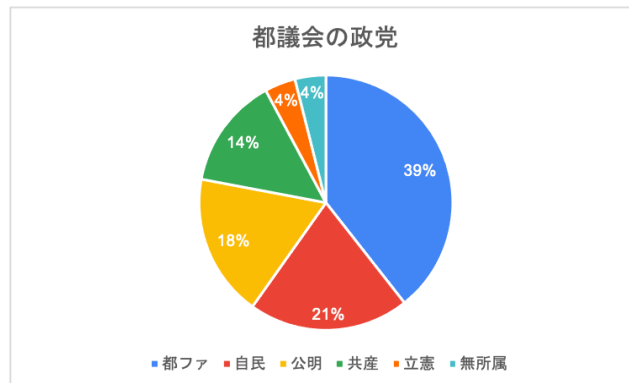


図6：全都議会議員の所属会派

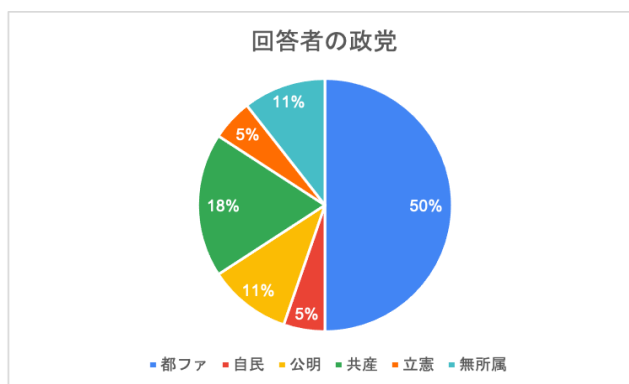


図7：回答者の所属会派

また、分析をするにあたって全都議会議員と今回の調査に協力いただいた都議会議員の所属会派の割合を分析・比較した。この結果から、本調査の回答の半分は都民ファーストの会所属

の議員によって構成されているということが分かる。また、会派によって回答率に大きな差があり自民党の割合は都議会では21%であるにも関わらず、本調査ではわずか5%に留まった。一方、無所属の割合は都議会では4%であるにも関わらず、本調査では11%と倍増している。分析結果はこの回答に注意する必要がある。

## 分析結果

### 1. 都議会議員から見た東京都の新型コロナウイルス対策についての仮説

表2：総合評価・性別・年齢・政党の重回帰分析

	Estimate	Std. Error	t value	Pr (> t )	
(Intercept)	5.762	1.949	2.957	0.006	**
性別	-0.098	0.618	-0.158	0.876	
年齢	-0.017	0.028	-0.632	0.532	
都ファ	3.628	1.597	2.272	0.031	*
自民	3.341	1.937	1.725	0.095	.
公明	3.736	1.860	2.009	0.054	.
共産	-0.673	1.731	-0.389	0.700	
立憲	0.184	1.883	0.098	0.923	
無所属	-0.188	1.839	-0.102	0.919	

Residual standard error: 1.519 on 29 degrees of freedom

Multiple R-squared: 0.684, Adjusted R-squared: 0.5969

F-statistic: 7.847 on 8 and 29 DF, p-value: 1.452e-05

東京都のコロナ対策に対する総合的な評価を目的変数、性別・年齢・政党を説明変数とし、帰無仮説を「目的変数は説明変数の影響を受けない」対立仮説を「目的変数は説明変数の影響を受ける」と設定し、重回帰分析を行った。その結果を表2に示す。

分析の結果、切片の回帰係数は5.76212、t値は2.957、p値は0.00612。都ファの回帰係数は3.62837、t値は2.272、p値は0.03067。自民の回帰係数は3.34101、t値は1.725、p値は0.09517。公明の回帰係数は3.73598、t値は2.009、p値は0.05394となった。説明変数・都ファのp値は有意水準である0.05を下回っているため、帰無仮説を棄却し対立仮説「目的変数は説明変数の影響を受ける」を採択する。よって、総合的な評価と都民ファーストの会所属の議員

には相関があり、都民ファーストの会所属の議員ほど総合的な評価を高くつけていると判明した。

また、自民・公明の説明変数も10%水準と捉えれば有意であるため、総合的な評価と自民党・公明党所属の議員にも相関があると推測できる。この結果については2020年7月5日に行われた東京都知事選挙で自民党・公明党が小池都知事を支持していたことと関連があると考えられる。

以上の結果から、小池都知事率いる都民ファーストの会に所属している議員は、東京都のコロナ対策を総合的に高く評価する傾向にあり、自民党・公明党に所属している議員にも都民ファーストの会ほどではないが同様の傾向が現れていることが判明した。

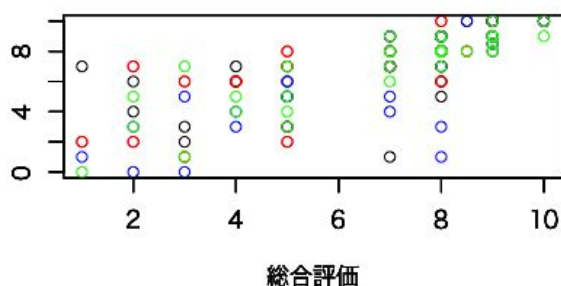


図7：対策の評価の散布図

次に、x軸を総合評価、y軸を各対策の評価とし散布図の作成を行い重ね合わせたところ図7のような結果となった。黒は感染拡大防止協力金、赤は感染症対策サイト、青は知事の会見、緑は東京都議会災害対策連絡調整本部を表している。

この散布図から、他の項目と比べると東京都議会災害対策連絡調整本部は左下から右上の線形に沿った分布をしており、東京都の対策の総合評価と高い相関にあると分かる。

表3：総合評価と各項目の相関係数

感染拡大防止協力金	感染症対策サイト	知事の会見	東京都議会災害対策連絡調整本部
0.6597352	0.8087201	0.8098283	0.8747451



更に、東京都の対策の総合評価と各対策の評価の相関係数を見てみると表3の通り特に東京都議会災害対策連絡調整本部には東京都の対策の総合評価と強い正の相関があることが判明した。

表4：総合評価・各項目の重回帰分析

	Estimate	Std.Error	t value	Pr(> t )	
(Intercept)	0.2803	0.7298	0.384	0.703383	
感染拡大防止協力金	0.1035	0.1217	0.851	0.401059	
感染症対策サイト	0.1389	0.1432	0.969	0.33942	
知事の会見	0.1452	0.1221	1.189	0.242845	
東京都議会災害対策連絡調整本部	0.548	0.1472	3.722	0.000735	***

Residual standard error: 1.1 on 33 degrees of freedom

Multiple R-squared: 0.8114, Adjusted R-squared: 0.7885

F-statistic: 35.49 on 4 and 33 DF, p-value: 1.606e-11

また、東京都のコロナ対策に対する総合的な評価を目的変数、各対策の評価を説明変数とし、帰無仮説を「目的変数は説明変数の影響を受けない」対立仮説を「目的変数は説明変数の影響を受ける」と設定し、重回帰分析を行った。その結果を表4に示す。

分析の結果、東京都議会災害対策連絡調整本部の回帰係数は0.548、t値は3.722、p値は0.00073となった。説明変数・東京都議会災害対策連絡調整本部のp値は有意水準である0.05を下回っているため、帰無仮説を棄却し対立仮説「目的変数は説明変数の影響を受ける」を採択する。

以上の結果から、総合的な評価は各対策の評価が高いほど高くなるという傾向があるが、特に東京都議会災害対策連絡調整本部の評価と総合的な評価の間には強い正の相関が認められており、この変数が1上昇すると総合評価が0.548上昇するという関係性が判明した。

平均値だけで解釈をすると高く評価されているのは感染症対策サイトや感染拡大防止協力金であったが、この分析からこれらのような高評価の項目よりも総合評価との相関が有意であった、東京都議会災害対策連絡調整本部の評価が総合的な評価に強い影響を与えていると分かる。つまり、都議会議員は都議会の行ったことをもとに総合的な評価をつけていると考えられる。都議会議員は普段から都議会の運営に深く関わっており、都議会議員たちは自分たちの行ったことに対する評価を総合評価にも反映させている。この事実から、都議会議員にとって都議会の働きと東京都の働きは同じであると言える。

## 2.財政調整基金に対する見通しについての仮説

表5：財政調整基金・性別・年齢・政党・前職の重回帰分析

	Estimate	Std. Error	t value	Pr(> t )
(Intercept)	10.45028	3.701053	2.824	0.00919 **
性別	-0.18784	1.181697	-0.159	0.87498
年齢	-0.00691	0.057814	-0.119	0.90587
都ファ	-2.13508	2.9747	-0.718	0.47957
自民	-2.36532	3.599629	-0.657	0.51712
公明	-5.23342	3.474596	-1.506	0.14455
共産	-3.53349	3.326712	-1.062	0.29832
立憲	2.572518	3.472012	0.741	0.46564
無所属	-1.47756	3.396284	-0.435	0.66726
前職	0.894288	1.82018	0.491	0.62749

Residual standard error: 2.791 on 25 degrees of freedom

Multiple R-squared: 0.3505, Adjusted R-squared: 0.1167

F-statistic: 1.499 on 9 and 25 DF, p-value: 0.2024

先行研究の結果から導いた「以前に経済や経営などの知識を多く扱う職業に就いていた議員は一致した比較的慎重な見通しを立てる」という仮説を検証するため、財政調整基金の回復に必要なだと考える年数を目的変数、性別・年齢・政党・前職が金融・経済に関連するものだったかどうかを説明変数とする重回帰分析を実行した。帰無仮説を「目的変数は説明変数の影響を受けない」対立仮説を「目的変数は説明変数の影響を受ける」と設定し、その結果を表5に示す。

分析の結果、切片の回帰係数は10.45028、t値は2.824、p値は0.00919となったが、いずれの説明変数のp値も有意水準である0.05を上回っているため、帰無仮説「目的変数は説明変数の影響を受けない」を採択する。

よって、税制調整基金に対する見通しと議員の性別・年齢・所属政党・前職には関連がないと判明した。

## 結論と含意

小池都知事の支持勢力である都民ファーストの会・公明党所属の議員と、総合的なコロナ対策評価には強い相関があり、都民ファーストの会のダミー変数のp値は0.03067、公明党のダミー変数のp値は0.05394と5%有意水準に非常に近い値となった。また、自民党も都民ファーストの会・公明党ほどではないものの同様の傾向を示した。しかし、自民党議員のサンプル数は他の会派と比べ少なく、必ずしも自民党が小池都知事を支持しているとは判断することができない。一方、それ以外の会派のp値はどれも高く、小池都知事の支持勢力ではないということだけで厳しい評価をするわけではないと判明した。

以上のことから、一つ目の仮説「小池都知事の支持勢力である都民ファーストの会・公明党が高い評価をし、それ以外は比較的厳しい評価をする」は一部支持されるが、一部は支持されないと言えることができる。

加えて、東京都の財政調整基金の今後の見通しについてはどの変数とも相関を確認することができなかった。よって、二つ目の仮説「以前に経済や経営などの知識を多く扱う職業に就いていた議員は一致した比較的慎重な見通しを立てる」は支持されない。

以上の結果から、現時点での東京都の新型コロナウイルス対策は都議会議員からみた場合、比較的評価が高く、特に支持勢力である都民ファーストの会・公明党それに加え自民党から良い評価を受けていると事実を得ることができる。また、東京都の財政に対する見通しはその人物の過去の性質や経歴に影響されないということが明らかになった。

NHKが2020年6月に行った都民へのアンケート調査<sup>2</sup>によると小池都知事の新型コロナウイルス対策を評価する・ある程度評価すると回答した人は全体の約63%であった。この数字はあくまで小池都知事の評価であり、東京都の評価ではないが小池都知事が中心となって新型コロナウイルス対策に臨んだ事実を踏まえると、63%という数字は東京都へ対しての評価でもあると考えることができる。よって、東京都の新型コロナウイルス対策は一定の評価を得ていると判断することができる。一方、都議会議員からの評価の平均点は6.9であった。評価の方法が異なるため、単純に比較することはできないが、平均しても点数が約7割獲得できているという結果から東京都の新型コロナウイルス対策は一定の評価を得ていると言えることができる。以上のことから東京都の新型コロナウイルス対策評価においては、民意と都議会議員の間に大きな差はないと判明した。なお、具体的にどの政策が評価に結びついたのか、NHKの調査では明らかにされていないため判断することは難しい。解明できた点は必ずしも多くはないが、若干なりとも寄与できたと思われる。

---

<sup>2</sup> 出典：NHK「なぜ東京都民は再び小池を選んだのか ～1万人アンケートで見るホンネ」  
<<https://www.nhk.or.jp/politics/articles/feature/41018.html>>2020年7月8日  
アクセス日：2021年1月31日

## 参考文献

- ・尾崎仁美・上野淳子、2001年、「過去の成功・失敗経験が現在や未来に及ぼす影響——成功・失敗経験の多様な意味——」『大阪大学大学院人間科学研究科紀要』27: 63-87
- ・川村一義、2013年、「現代日本の政党制と議会政治 — 自民党政権から民主党政権まで—」、『GEMC journal』9: 84-91
- ・東京都議会、「議員名簿」、<<https://www.gikai.metro.tokyo.jp/membership/>>
- ・室谷心、2017年、「東京都議会議員選挙におけるツイッターの解析」、『教育総合研究』1: 91-108